

# 畜産ダイジェスト・農業ダイジェスト

## 子豚の白痢防止用新飼料

中部飼料（本社名古屋市）ではこのほど子豚の白痢を予防する種豚用の新飼料Sを開発し、近く発売することになった。

この飼料は、子豚が白痢にかかるのを防ぎ、養豚経営を安定させることを目的に研究されたもので母豚に一定期間（分娩前15日～分娩後25日）与えて、母豚の体質を改善し、母乳を改良してゆくもの。専門養豚家で2年間にわたって行った実地テスト結果では、ほぼ100パーセント成功している。

なお、新飼料の組成は、粗たん白質15・0パーセント以上、粗脂肪1・5パーセント以上、粗せんい8・0パーセント以下、粗灰分10・0パーセント以下、TDN66パーセント以上となっている。

（日経新聞8月6日）

## 子豚の飼料に鶏の臓物を

すてるしかない鶏の臓物が子豚の育成にかなり効果のあることが兵庫県立種畜場の研究で明らかになり、子豚の飼料革命にもひとしいと、関係方面の注目を集めている。

同種畜場が、子豚の飼料として鶏の肺や腸、脚など食用に適しない部分の利用を考えついたのは、良質のたん白質やエネルギー源の豊富な点を見込んだもので、高価な配合飼料だけに依存するよりもはるかに成績がすぐれていることが、このほどまとめた調査結果で立証された。

（日経新聞8月26日）

## ブロイラー増産流通対策

### 群馬県経済連

ブロイラーの新興産地、群馬県経済連では、原種鶏導入による品種の一本化とヒナ供給体制の確立畜殺処理場の団地化など、増産、流通対策を進めており、これが軌道にのる42年には、同連の契約、飼育羽数は年間2百万羽と倍増し業者系の扱いを含めれば3百万羽と東日本一の産地にのし上がる見通しである。

（日経新聞8月27日）